

平成25年度夏季休業明け集会（H25. 8. 26）

○ はじめに～区切りの時には、振り返りが大切。夏季休業前集会の話から。

△ 教育実習生のメッセージ

- ・ 「信は力なり」「継続は力なり」、毎日の積み重ねが皆さんを作る。この安積高校で学んでいることに誇りを持ち、自分や仲間を信じ、この時間を大切にしてほしい。
- ・ 第一志望に合格するには、いかに特別な対策をするかでなく、いかに当たり前のことを地道にできるかが重要

△ 夏休みの過ごし方

「自分自身をしっかりと見つめ直す時間をとること」

3年夏休みに京都一人旅

～実は、悩みが深くなった。やはり京都はいい。でも学力的にきつい。浪人はできない。日本（古典）文学、日本の歴史、心理学も。

→最初から学科まで細分化しない（国立）大学が便利。

○ 安積で学ぶこと

～教育環境としては（ハード面を除き）県下一、東北・全国有数

- ・ 130年の歴史と伝統、実績、卒業後も続く安積の絆 → 安積桑野会の支部
青森、盛岡、仙台、宇都宮、東京、関西、香港・華南
福島、福島県庁、二本松、郡山市役所、本宮、須賀川、石川、
（安積町、猪苗代、湖南、三春、矢吹、いわき、白河）

素晴らしい教師、素晴らしい仲間（学友）

→教えたり、教えられたり、刺激を与えたり、与えられたり

しかし、「学ぶこと、生きること」は、最後は孤独な営み。

たくさんの選択肢の中から一つを選び取る決断をする、それを絶えず繰り返すことが生きること。

人それぞれ書を読んでゐる良夜かな 山口青邨

山崎正和「文明としての教育」（新潮新書2007年）から

テレビ、ラジオ、インターネット、携帯（スマートフォン）・・・山のような情報を浴び、常に他人と結ばれ、四六時中、刺激的でしかも断片的な受け身でしか受け取れない情報に首まで、頭まで浸かっている。これに慣れた若者は、情報漬けでいないと落ち着けない。別の面から見ると、現代の子どもたちは孤独になる権利を奪われている。「情報のジャンク・フードを食べ続けさせられ、真の知識に対する空腹を味わう機会を奪われている。」

子どもたちを情報の氾濫から切り離すためには、本を読ませること。

本は何よりも一人で読むもの。一人ずつ違った速さと深さで読む、反復して読む、飛ばして読む、行ったり来たりして自分の読解の中身を確認する、活字の塊である本に、想像力を加え、能動的な読みを通して考える力を養う。

読書とは、読む人が主体的に操作して初めて生きてくる情報源。